

人権センター 図書だより



Vol.23 令和3年9月20日発行

発行：四日市市人権センター

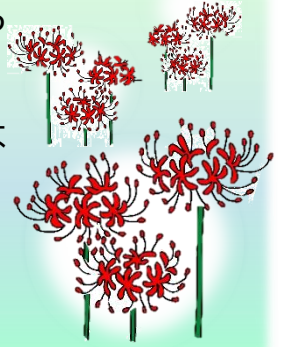
TEL.354-8609 FAX.354-8611

jinkencenter@city.yokkaichi.mie.jp

9月23日は「秋分の日」、祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ日とされています。古くから「暑さ寒さも彼岸まで」といわれ、日本人の生活サイクルの指標にもなってきました。

そのお供え物といえば、おはぎ。秋の七草でもある「萩」から命名されたとか。ちなみに春分の日はおたもちで、「牡丹餅」からきているそうです。おはぎも おたもちも同じだ、という説もありますが、秋はつばあん、春はこしあん、という説もありますね。

過ごしやすい季節なのに自粛生活は続きます。おいしいものを食べて、読書を楽しみましょう。



📚 新着図書より 一部紹介 📚

絶好調じゃなくても、なんとかやっていけるー。

『わたしの身体はままならない』

〈障害者のリアルに迫るゼミ〉特別講座

(JI-135 石田祐貴・いちむらみさこ・伊藤亜紗・今井出雲・笠島敏・桐島優太・熊谷晋一郎・坂爪真吾・玉木幸則・野澤和弘・馬場拓也・haru・樋口直美・etc.著 河出書房新社)

わたしとあなたで、見える世界、語る言葉はどう違うのだろうか？本書は、東大をはじめ全国8大学で行われた、当事者による講義「障害者のリアルに迫るゼミ」をもとに書籍化したもので、心や身体に何かしらの障害を抱えていたり、生きずらいと感じている著者達のそれぞれのリアルな声を聴き、知らなかった世界に触れられるような一冊です。

13人の著者たちの「こんなふうにいるよ」という言葉は、異なる環境にあるわたしたちが、この不安定で複雑な世界をわからない他者と共に生きるためのアドバイスとして、受け止められるのではないかと思います。

約219万人。“生活保護”は他人事？

漫画

『健康で文化的な最低限度の生活』(1)~(5)

(J-5-248 柏木ハルコ 著 小学館)

タイトルは、日本国憲法25条「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」という条文からきています。生活保護という難題を題材とし、公務員として区役所生活課に配属された、ちょっと頼りない新人職員が、生活保護の現場で悪戦苦闘するストーリー。

自分の家庭でも、いつ失業や病気、離婚といった問題に直面するか分からない。決して他人事ではない、重要だけど触れにくく難しい問題を、重苦しくなくマンガという表現によって分かりやすく、興味をもてるように楽しく描かれています。

生活保護や貧困という社会課題に関心を持ち、ケースワーカーや公務員の仕事にも触れられる一冊です。

憎んでいたんじゃない、愛されたかった。

『母』

(J-1-134 青木さやか 著 中央公論新社)

母との確執、和解、看取りを赤裸々に語った青木さやかさん(フリーアナウンサーを経てタレントへ)のエッセイ本。自分のことが嫌いだった著者が、こじれた人生を一つ一つほどいていく、生きることの意味を追い求めるヒューマンストーリー。「もし、母が選べるのだとしたら、わたしはこの母を決して選ばなかった。わたしはアンラッキーだ。どうしてわたしにはこの母が割り当てられたのだろう」と、母から逃げるように飛び出した東京での日々を記す。そして、結婚、出産、離婚、二度のがん手術を経て娘と二人暮らし。母との関係はこじれたまま…。

母の最期に、母との関係を修復しようと望み、母に愛されていたと感じる。それでも遅くない、死んでもできる親孝行は楽しく笑いながら生きていくこと。人生は、仲直りだ！

今の家族の姿は、長年の積み重ねの結果でしょうか

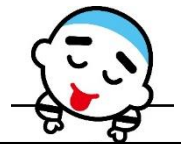
『「子供をころしてください」という親たち』

(I-1-79 押川剛 著 新潮社)

「このタイトルで本を執筆しようと思い立ったのは、奇をてらったわけではなく、家族の問題に介入する中で幾度も耳にするようになったこの言葉に、非常に危機感を抱いたからです。」と作者はあとがきに記しています。

自らは病気の自覚のない、精神を病んだ人を説得して医療につなげてきた著者の許に、万策尽きて疲れ果てた親がやってくる。過度の教育圧力に潰れたエリートの息子、酒に溺れて親に刃物を向ける男、母親を奴隷扱いし、ゴミに埋もれて生活する娘…。

「家庭内暴力」と一言で片づけられるような問題ではなく、精神科医療との繋がりを必要としながらも適切な対応がとられていない現状が記されています。親の人生と子の人生をリンクして考える事が、カギになるかもしれません。



書名	著者等	出版社等	分類番号	
小説8050 (Hachi-Maru,Go-Maru)	林真理子	新潮社	A	139
自閉症の僕が生きていく風景	東田直樹	角川文庫	F	227
虐待死 なぜ起きるのか、どう防ぐか	川崎二三彦	岩波書店	F	228
他者の靴を履く アナーキック・エンパシーのすすめ	ブレイディみかこ	文藝春秋	I-1	79
子を、親を、児童虐待から救う 先達32人の現場の知恵	(編著)鈴木秀洋	公職研	I-1	80
母	青木さやか	中央公論新社	J-1	134
わたしの身体はままならない 〈障害者のリアルに迫るゼミ〉特別講義	熊谷晋一郎、伊藤亜紗、野澤和弘、 石田祐貴、いちむらみさこ…他	河出書房新社	J-1	135
健康で文化的な最低限度の生活 1 ★	柏木ハルコ	小学館	J-5	248
健康で文化的な最低限度の生活 2 ★	柏木ハルコ	小学館	J-5	249
健康で文化的な最低限度の生活 3 ★	柏木ハルコ	小学館	J-5	250
健康で文化的な最低限度の生活 4 ★	柏木ハルコ	小学館	J-5	251
健康で文化的な最低限度の生活 5 ★	柏木ハルコ	小学館	J-5	252
「子供を殺してください」という親たち	押川剛	新潮文庫	J-5	253

新着DVDより紹介



『カンパニユラの夢』 テーマは、超高齢化社会とひきこもり(8050問題)

主人公の岸本麻帆は、あることをきっかけに「ひきこもり」は誰にでも起こり得ることだと気づきます。一方、20年以上ひきこもり状態にある谷口誠一とその両親は問題が長期化する中で、解決の糸口すら見いだせないまま苦悩しています。麻帆は谷口家の抱える問題に寄り添い、解決策を求め行動を起こします。

急速に高齢化が進む今、8050問題は誰にでも起こりうるものと認識し、地域の人々がひきこもりなどの悩みを共有し偏見をなくすとともに、互いに助け合うことで地域共生社会の実現をめざす人権啓発ドラマです。



新着DVD 2021年前期

2021年度 入庫ビデオ/DVD

分類	タイトル	種類	時間
7 - 301	話せてよかった 家庭からふりかえる人権	DVD	27
7 - 40	地球が動いた日	DVD	75
3 - 66	しらんぷり	DVD	21
	いのちへの讃歌 ぼくの青空	DVD	26
	金色のクジラ	DVD	25
5 - 76	心のバリアフリーをめざして ー合理的配慮と職場のコミュニケーションー	DVD	55
6 - 21	認知症対策シリーズ「何をしたら、思い出せない～認知症をよく知り、早めの備えを～」	DVD	20
7 - 302	カンパニユラの夢	DVD	36